

2018 孫基禎平和マラソン大会ツアー報告記

昨年に引き続き、今年も標記の行事を実施することができました。参加人数は2名増えて6名のツアー団となり、ほんの僅かですが着実な進歩を感じることができました。ここで2泊3日のツアーを振り返り、その様子をお伝えしたいと思います。



フルマラソンの部スタート風景



レース後地元ランニングクラブのメンバーと

今年の大会は1988年に開催されたソウルオリンピック30周年記念行事の一環として実施され、開催日が例年より1カ月も早い10月3日(水)となりました。この日は韓国の建国記念日である開天節で祝日。30年前の10月2日がオリンピックの閉会式だったので、それに合わせたようです。しかし日本では平日のど真ん中。フルタイムの仕事をしている方には、たいへん厳しい日程になってしまいました。そこでツアー日程も前回の3泊4日から2泊3日に短縮しました。このような悪条件にもかかわらずツアーに参加していただいた方々には、本当に感謝・感謝です。今回のツアーは少ない時間に前回と同じプログラムを盛り込んだため、とても忙しく身体的にもきついスケジュールとなってしまいました。以下に実施したプログラムを記します。

10月2日(火)

ホテルにチェックインを済ませた参加者は、休む間もなくタクシーと朴明姫さん(韓国中原大学教;順天堂大学・院修了)の車に分乗し、ソウル駅近くにある孫基禎記念館を目指しました。記念館脇の公園には孫基禎さんの新たなモニュメントが建っており、先ずは全員で記念撮影。館内では寺島団長の解説で孫基禎さんの足跡が詳しく語られました。展示物には、韓国語しか説明文がないものがありますが、そんな時には朴明姫さんとツアーの準備段階からの支援者である金宗洙さん(明治大学OB)の通訳ガイドが大いに理解を助けてくれたのでした。



この日のもう一つのプログラムは、現地のランニングクラブとの合同練習です。翌日の大会会場となるソウルオリンピックスタジアムで、ナイター照明のもと軽く脚慣らしをしました。あいにく、平日夜の練習会のため仕事の都合で参加できない会員も多く、昨年の合同朝練習と較べると小規模なものとなりました。しかし、ツアー初日は早朝から乗り物移動が多かったため、和気あいのジョギングで心身ともにスッキリ。翌日のレースに向け、まずまずのコンディションが整いました。



10月3日(水)

午前6時40分にホテルロビーに全員集合。仕事の関係で、前夜遅くにホテルに到着したHさんも元気に合流。その後、タクシーと朴さんの車で会場のオリンピックスタジアムに向かいました。到着すると、会場は日本のマラソン大会と同じように多くのランナーの熱気で満ち溢れています。開会式では前年同様、寺島団長がステージ上で紹介されたので、日本のユネスコクラブからの参加が徐々に認知されて来ていると思われま

す。レースは全員が10kmの部に参加。氷点下に見舞われた前回大会と打ってかわり、清々しい秋晴れのなかで快適なランニングができました。会場には孫基禎さんの功績を称える展示ブースも設置され、今を生きる韓国人ランナーたちを激励しているようにも見えました。



開会式で紹介される寺島団長(左端)



手を振って声援に応えるツアー参加者

レース後には地元ランニングクラブのメンバーと懇親昼食会です。昼食会といっても走った後なので、アルコール飲料の消費がすすみます。参加者数は去年の半分くらいでしたが、そのぶん朴明姫さんの軽妙な司会で参加者全員が一言ずつスピーチする機会がもて、お互いを知るよい機会となりました。ツアー参加者のうち2名は昨年に引き続いての連続参加でしたので、顔を覚えているクラブメンバーもいて再会を喜び合うことができました。また、Tさんは今年もプレゼントを持参し、和やかな雰囲気づくりに一役買ってくれました。

こうして予定の2時間はあっという間に過ぎ、翌年の再会を誓って散会となりました。その後はいったんホテルに戻り、最後のプログラムであるツアー参加者完走パーティーに備え、しばし休息の時間です。なかには疲れも見せず、そのまま明洞あたりに出かけるというパワフルな行動もあったようです。

10月4日(木)

ツアー最終日は、それぞれの予定に合わせ各自チェックアウトです。さらにもう1泊する方。帰国便が夜なので、フライトまでソウル市内を目いっぱい観光する方。チェックアウト前にソウルオリンピック公園を一走りする方等々。誰もが平日3日間のツアーを最大限楽しめたようでした。こうして今年のツアーも無事に全日程を終了することができました。



忙しい仕事をやり繰りしてご参加いただいた日本からのランナーの皆さま、本当にありがとうございました。また、現地できめ細かなご支援いただいた金宗洙さん、朴明姫さん、そして松坡区ランニングクラブの日本語が堪能な陳美淑さんのお力添えに心から感謝申し上げます、報告記を閉じたいと思います。

文責 小林均(事務局)